

令和8年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立 片柳中学校)

学校番号 2 3 2

【様式】

学 校 教 育 目 標	「夢をはぐくむ学校」 ○自ら学生徒 ○心豊かな生徒 ○心身を鍛える生徒
目 指 す 学 校 像	「地域から信頼され、地域とともに歩み、生徒・教職員一人ひとりの自己実現・Well-being が図れる学校」
重 点 目 標	1 学校が定めた5つの資質・能力の育成を通じた真の学力の向上 2 自己肯定感の向上を通じた、心豊かな生徒の育成 3 コミュニティースクールを核とした地域と一体となった教育活動の展開 4 安心・安全な教育環境の整備 5 持続可能な新しい学校の在り方を求める教職員の育成

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標					年 度 評 価			実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<現状> ○令和7年全国学力・学習状況調査では、国語、数学は全国・県平均を下回っているが、理科は全国・県平均をやや上回っている。 ○授業には真面目に取り組み、探究的活動にも意欲的に取り組む。学校評価「授業でわかった、できた」という実感は90.7%。 <課題> ○全国調査の結果から数学は図形やデータの活用、国語は書くことに課題が見られる。課題を理解し、表現することに苦手意識があると考えられる。 ○家庭学習に取り組んでいる生徒の割合が低い。保護者学校評価60.5%。	・学ぶ意味や楽しさの実感。	①国の指定を受け、教育課程の研究に取り組む。朝の主体的な学習による学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。	①生徒学校評価「授業でわかった、できた」という実感90%以上。					
		・5つの資質・能力の向上（言語能力、問題発見・解決能力、情報活用能力、コミュニケーション能力・他者と協働する力、自己調整力）	②カリキュラム・デザインマップを活用したコラボ授業の推進。	②生徒学校評価家庭学習をしている80%					
2	<現状> ○令和7年全国学力・学習状況調査、質問紙「自分にはよいところがある」肯定的回答95.9%で、全国平均を10P程度上回っている。 ○学校評価「学校は楽しいですか」肯定的回答94.6%。 ○学校評価「困り事、悩み事を相談できる大人はいますか」肯定的回答94.0%。 <課題> ○不登校傾向、心の不安を訴える生徒への対応。	・自己肯定感や有用感、達成感の向上。	①様々な分野から社会人講師を招聘し、キャリア発達を促す体験的活動を多く実施し、将来への夢や展望を持たせる。（PwC、かたやなぎエンジン等）	①市学調「将来の夢や目標を持っているか」80%以上。					
		・キャリア形成につながる活動の充実。	②①の活動を通し、好奇心、創造性、協調性等、非認知能力の育成を図る。	②生徒学校評価「仲間のよさを理解し、お互いを認め合っている」95%以上。					
3	<現状> ○学校運営協議会に生徒が参加し、生徒と地域との協働活動が実践され、学校、地域、警察が連携したあいさつ運動及び交通安全への呼び掛けが行われた。 ○令和7年全国学力・学習状況調査、質問紙「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」肯定的回答77.8%、全国平均を2.8P上回っている。 <課題> ○学校運営協議会を核とした生徒、保護者、地域との協働活動のさらなる充実。 ○部活動地域展開の推進。	・地域に対し貢献できたか。	①代表生徒を交えた学校運営協議会の実施の継続と取組内容の発展。	①生徒学校評価「ボランティア活動に参加したことがありますか」90%以上。					
		・義務教育学校に向けた小中一貫教育のさらなる推進。	②地域行事の意義と生徒との関わりについての啓発活動の充実。	②生徒学校評価「片柳中生として自覚と誇りをもって生活していますか」90%以上。					
4	<現状> ○校務DXにより、ペーパーレス化や校務の効率化が進み、令和7年度の紙使用量の大幅削減と、会議の非同期化等が実現された。 ○3学期に生徒用タブレットが更新され今後の教育活動の質的向上が期待される。 <課題> ○校舎全体の老朽化、トイレの臭い、雨漏り、廊下の滑りなど、整備が必要である。	・校務のDX化の進捗状況。	①文科省の定める校務DX化の実例にできる限り近づける。	①保護者学校評価「学校は清掃が行き届いていますか」95%以上。					
		・印刷関係消耗品類の削減。	②備品台帳の整理と不要物品の廃棄と再利用も含めた検討。	②紙代、印刷関係消耗品の3%削減。					
5	<現状> ○クラウドを活用した会議運営や生成AIの活用によって働き方改革が前進している。 ○研修の奨励により、授業方法について新しい発想の下での工夫や改善に向けての共通認識が深まりつつある。 <課題> ○生徒主体の指導観、評価観への転換。 ○令和8年度の研究発表に向けた校内研修の一層の充実が必要。	・新しい教育情報の収集に努め、授業改善に取り組んでいるか。	①全国的な研究会や講演等へのオンライン参加、オンデマンド視聴も含め積極的な参加。最新の教育情報を収集し、自己研鑽するための時間の確保。	①学びの指標における主体的・探究的学び共に3.3以上。					
		・業務のより一層の効率化と削減が図られているか。	①Teamsの活用による電子起案や会議前の情報共有を実施。	③誌上も含めた研究発表会の実施。					